

9月1日(木)は防災の日 防災に大事な3つの心得

危機管理室 防災担当
☎464-1111(内2384)

災害は、いつどこで発生するかわかりません。防災の要となる「モノ」「安全」「情報」のポイントを整理しました。
皆さんで一緒に話し合い、防災意識を高めましょう。

心得1 モノ

- いつも持ち歩くモノ
- とっさに持っていくモノ
- 備蓄しておくモノを分けて用意

いつも持ち歩くモノ

巾着やポーチにまとめ、日常生活でいつも持ち歩くと安心

飲料水500ml、かさばらない軽食
携帯トイレ、ヘッドライト
電池、アルミ製保温シート
レジャーシート、ポリ袋(大、中、小各数枚)
マスク、持病薬、メディカルカード
災害時の連絡ガイドブック
携帯電話、スマートフォンの充電器

最低限
これだけは



とっさに持っていくモノ

災害発生直後、避難時にすぐに持ち出し、被災1日目をしのぐ持ち物です。

非常食(調理不要のもの)、地図、
救急用品セット、タオル、
携帯トイレ(多めに)、雨具
ウェットティッシュ、ラップ、革手袋
必需品(コンタクトレンズや個人で必要とする常備品)

最低限
これだけは



自宅に備蓄しておくモノ

ライフラインが途絶える数日間
(最低3日間、推奨1週間分)を
自給自足するための備えです。

飲料水(1日3ℓ)、ポリタンク、
レトルト食品などの備蓄食
携帯ラジオ、カセットコンロ・ガス
クーラーボックス、ランタン、新聞紙

最低限
これだけは

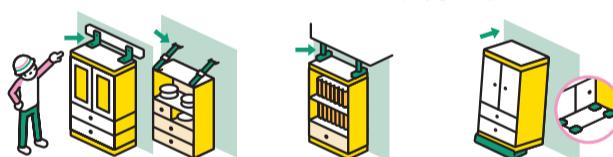


心得2 安全

災害が起きたとき、けがをした人を助けるためにも、自分がけがをしないことが大切

家具

- 背の高い家具はL型金具や伸縮棒などで固定し、上には重いものや割れやすいものを置かない
- 重い家具は前面に板などを差込み壁にもたれかかせる、チェーンで固定するなどし、転倒を防ぐ



ガラス

- ガラスの破片によるけがを防止するため、スリッパなどの室内履きを身近に用意しておく
- 窓などの板ガラスには、飛散防止フィルムを全面に貼る

火災

- 感震ブレーカーを設置し、電気器具の転倒による火災や停電後の電気復旧時の通電火災を防ぐ
- ストーブは耐震自動消火機能付きにし、こまめに綿ぼこりを掃除する
- ストーブ使用時は燃えやすいものを近くに置かない
- カーテンは防火処理を施したものにする
- 消火器などを常備しておく

帰宅困難対策

普段から…

- 職場に帰宅困難グッズを置いておく
- 歩での経路を確認しておく

大地震発生直後は…

- まずは身の安全を確保する
- 災害用伝言サービスを使う
- むやみに移動・帰宅しない(約3日間)
(企業などが従業員の帰宅を抑制する場合があります)

帰宅困難対策グッズ

- 電池交換式バッテリー
- 乾電池
- 下着
- 常備薬
- 歯ブラシ
- 液体ハミガキ
- 非常食
- 水
- レインコート
- ヘルメット
- スニーカー
- 携帯トイレ
- ブランケット



心得3 情報

家族と離れた場所で災害にあったとき、連絡手段を事前に決めておくと安心

家族で決めておきたい4つのルール



集合場所・避難場所
どこで落ち合うか



行き先のメモを残す場所・方法
玄関扉の裏など



連絡の取り次ぎ先
遠方の親戚・知人など



災害時の連絡手段
災害用伝言サービスなど

非常時のトイレ対策を

災害時の暮らしに
一番大切なものはトイレ



大きな地震が発生すると、いつも使っている水洗トイレが使えない可能性があります。それは水が止まって流れなかったり、下水管が破裂して汚水が流れ出てしまうからです。また、トイレが使えないことで命に関わる問題も生じます。

「災害時の暮らしに一番大切なものはトイレ」と言われるほどです。災害に備えて、トイレ回数を1人1日5回で想定し、家族の人数に応じて7日分備蓄しましょう。

災害用伝言サービスの使い方

毎月1日と15などに体験利用ができます

- 1 まず、171をダイヤルする。
携帯電話や公衆電話からも可能



- 2 録音の時は「1」
再生の時は「2」をダイヤル

- 3 録音は
「自分(録音する人)の番号」
再生は
「相手(録音した人)の番号」
をダイヤル



- 4 音声ガイダンスに従い、
伝言を録音、又は再生する

自宅でできる防災の心得

和光市では、YouTube及びTikTokでBOSAI動画を公開しています。

動画を視聴して、日頃から防災力を身につけていきましょう。



YouTube



TikTok

株式会社コミュニケーションアートと
「災害時緊急放送に関する協定」を
結びました

令和4年7月7日、和光市は株式会社コミュニケーションアートと「災害時緊急放送に関する協定」を締結しました。

これにより、災害時にはラジオ放送を用い、速やかに防災情報を提供することにより、被害の軽減を図ります。

